

## はじめに

日本語能力試験は、1984年に始まった、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験です。受験者が年々増加し、現在では世界でも大規模の外国語の試験の一つとなっています。試験開始から20年以上経過する間に、学習者が多様化し、日本語学習の目的も変化してきました。そのため、2010年に新しい「日本語能力試験」として内容が大きく変わりました。新しい試験では知識だけでなく、実際に運用できる日本語能力が問われます。

本書はこの試験のN1レベルの問題集として作成されたものです。

まず「問題紹介」で、問題の形式とその解法を概観します。次に「実力養成編」で、問題形式別に、必要なスキルを身につけるための学習をします。最後に「模擬試験」で、実際の試験と同じ形式の問題を解いてみることによって、どのくらい力がついたかを確認します。

### ■本書の特徴

- ①問題形式に合わせて、それぞれに必要なスキルを学ぶ。
- ②各スキルを段階を踏んで学習することにより、無理なく聴解の力を養成する。
- ③豊富な練習で、問題形式に慣れる。

私たちはこれまで聴解の学習方法がわからないという学習者に大勢出会い、どうすれば聴解の力がつけられるかを考え続けてきました。そこで、「どのように聞くか」というスキルを、日本語能力試験の形式別に一つずつ身につけられるようにまとめたのが本書です。本書が日本語能力試験の受験に役立つと同時に、日本語を使って学習・生活・仕事をする際にも役立つことを願っています。

本書を作成するにあたり、第一出版部の服部智里さん、佐野智子さん、新谷遥さんには全体の構成から細かい表現まで丁寧に辛抱強く見ていただき、貴重なご助言をたくさんいただきました。心よりお礼申し上げます。

2011年3月 著者

# 目次

## はじめに

本書をお使いになる方へ.....	vi
------------------	----

## 問題紹介

1 課題理解.....	2
2 ポイント理解.....	4
3 概要理解.....	6
4 即時応答.....	8
5 統合理解.....	10

## 実力養成編

I 音声の特徴に慣れる	
1 似ている音の聞き分け.....	14
2 音の変化や縮約形.....	15

## II 「即時応答」のスキルを学ぶ

問題形式と内容.....	17
1 最初の文を理解する.....	18
1-A 「だれがするか」を聞き取る.....	18
1-B 「話し手はどう思っているか」を聞き取る.....	19
1-C 「起こったか、起こっていないか」に注意して聞く.....	20
1-D イントネーションに注意して聞く.....	21
1-E 会話でよく使われる表現に注意して聞く.....	23
2 返事の文を考える.....	25
確認問題.....	26

## III 「課題理解」のスキルを学ぶ

問題形式と内容.....	27
1 すべきことを理解する.....	28
2 優先される課題を判断する.....	31
3 条件を整理しながら聞く.....	33

かくにんもんだい 確認問題	38
<b>IV 「ポイント理解」のスキルを学ぶ</b>	
もんだいけいしき ないよう 問題形式と内容	39
1 話し手の意図を考えて、必要な情報かどうかを判断する	40
2 言い換えに注意する	43
3 多くの情報の中から必要な情報を拾う	47
かくにんもんだい 確認問題	52
<b>V 「概要理解」のスキルを学ぶ</b>	
もんだいけいしき ないよう 問題形式と内容	53
1 例と例をまとめる言葉を聞き分けて、話題をつかむ	54
2 キーワードを関連づけて、話の構造をつかむ	58
3 文を関連づけて、話の主題をまとめる	63
4 表現を手がかりに意見や主張を聞き取る	66
5 表現を手がかりに意図を考える	68
かくにんもんだい 確認問題	70
<b>VI 「統合理解」のスキルを学ぶ</b>	
もんだいけいしき ないよう 問題形式と内容	71
1 2人以上の人の話を整理する	72
2 2種類の話話を整理する	77
かくにんもんだい 確認問題	80
も ぎ し けん 模擬試験	82

# ほんしよ　つか　かた 本書をお使いになる方へ

## ■本書の目的

本書は以下の2点を大きな目的としています。

- ①日本語能力試験N1対策：N1の試験に合格できる力をつける。
- ②「聴解」能力の向上：試験対策にとどまらない全般的な「聴解」の力をつける。

## ■日本語能力試験N1聴解問題とは

日本語能力試験N1は、「言語知識・読解」（試験時間110分）と「聴解」（試験時間60分）の二つに分かれています。

聴解問題はさらに以下の五つの部分に分かれます。

- 1 課題理解
- 2 ポイント理解
- 3 概要理解
- 4 即時応答
- 5 統合理解

## ■本書の構成

本書は、以下のような構成になっています。

### 問題紹介

- 実力養成編
- I 音声の特徴に慣れる
  - II 「即時応答」のスキルを学ぶ
  - III 「課題理解」のスキルを学ぶ
  - IV 「ポイント理解」のスキルを学ぶ
  - V 「概要理解」のスキルを学ぶ
  - VI 「統合理解」のスキルを学ぶ

### 模擬試験

以下に詳細を説明します。

問題紹介　試験の概要と形式別の簡単な解法を知り、全体像をつかんでから学習を始めます。

- 実力養成編
- I 音声の特徴に慣れる  
音声テキストの特徴を理解して聞く練習をします。

## II 「即時応答」のスキルを学ぶ

質問、依頼など短い文を聞いて、それに合う答え方が即時に判断できるようになることを目指します。会話に使われる表現や音声的情報を意識しながら、最初の文と返事の文の意味を正確につかみ、適切な受け答えを選ぶ練習をします。

## III 「課題理解」のスキルを学ぶ

話の中から指示や依頼、助言などを聞き取り、これから何をすべきかが判断できるようになることを目指します。そのために、すべきことを理解する練習、優先される課題を理解する練習、条件を整理しながら聞く練習をします。

## IV 「ポイント理解」のスキルを学ぶ

話の中から質問されたことにポイントを絞って聞き取れるようになることを目指します。必要な情報かどうかを判断する練習、選択肢に見られる言い換えを意識して聞き取る練習、多くの情報の中から必要な情報だけを拾う練習をします。

## V 「概要理解」のスキルを学ぶ

話全体の主題、話し手の意図、主張などが判断できるようになることを目指します。具体例かまとめる概念かを判別する練習、キーワードを関連づけて話の構造をつかむ練習、文を関連づけて話の主題をまとめる練習、意見・主張を聞き取る練習、話の意図を把握する練習をします。

## VI 「統合理解」のスキルを学ぶ

これまでのスキルを複合的に使って、より多くの情報を整理・統合しながら話の内容が理解できるようになることを目指します。2人以上の人の話を整理する練習、2種類の話を整理する練習をします。

### 模擬試験

実際の試験と同じ形式の問題です。実力養成編で学習した内容がどのぐらい身についたかを確認することができます。

## ■ 表記

基本的に常用漢字(1981年10月内閣告示)にあるものは漢字表記にしました。ただし、著者の判断でひらがな表記の方がよいと思われるものは例外としてひらがな表記にしています。本冊、別冊ともに漢字にはすべてふりがなをつけました。

## ■ 学習時間

50分授業でだいたい二つのスキルを学習できるように作成しました。(スキルがI-A、I-Bのように分かれている場合は、この下位のスキルを三つ~四つ。)ただし、丁寧にゆっくり進むかスピードアップするかによって時間数を加減することはできるでしょう。

## 【学習の進め方の例】

- ①解説を読む：学習するスキルを確認する。注意する表現がある場合は意味を確認する。
- ②例題、練習問題を行う：スキルを意識しながら行う。必要な場合は2～3回聞く。
- ③答えとスクリプトを確認する：内容を確認し、必要があればもう一度聞く。

## ■CDについて

収録時間の都合上、印刷された選択肢を読む時間や答えを考えるのに必要な時間のポーズが、実際の試験よりも短くなっています。必要に応じて、CDを一時停止するなどして、ご利用ください。



ここでは、「話し手の意図(苦情・相談・依頼・指示・断りなど)」を理解する練習をします。特に、依頼や苦情、注意などの言いにくいことは、日本語では直接言葉で表すことは多くありません。それよりも、自分の状況を説明しながら相手に考えさせる言い方をします。

例えば次のような表現を使って、話題を知らせたり状況を確認したりします。

- ・(伺いたいこと・ご相談・お願い)があるんですけど (意図を知らせる)
- ・恐縮なんですが/申し上げにくいのですが (言いにくい話題であることを知らせる)
- ・～だ(だった)と思うんですが (状況確認)

このような表現に注意して、まずは話題をつかみましょう。

### ★ 例題5

話を聞いて、①②に答えてください。 (B13)

①話題は何ですか。

②男の人の意図は何ですか。



**答え** ①ゼミの発表 ②発表日程を変更してほしいという依頼

男の学生は、「ゼミの発表のことなんですが」と言って話題を示し、さらに、「あさって発表予定の山下君」に「替わろうか」と申し出たことについて説明した後で、「変更していただけないでしょうか」とお願いしています。このことから、「ゼミの発表」の「日程」について、「変更してほしい」と頼んでいることがわかります。このように、話の始めで話題と状況をつかみ、それに続く部分から聞き取った内容を関連づけることで、話し手の意図を推測することができます。

#### ◆スクリプト

男の学生が先生の研究室へ行って話しています。

男：あの一、先生、僕のゼミの発表のことなんですが。

女：えーと、発表は来週でしたね、たしか。

男：はい。それが、あさって発表予定の山下君が、家の都合で今日から田舎に帰ってくるんです。

女：あら、そう。何も聞いてないけど。

男：先生には後でご連絡するって言ってましたけど。それで、ゼミの発表のことを気にしてたので、僕でよければ替わろうかって言ってしまったんですが……。

女：でも、来週の予定だったのなら、あさっては無理でしょう？

男：でも結構前から準備してましたし、早く終わったほうが気が楽っていうのもあるので、もしよかったら、変更していただけないでしょうか。

女：そう。じゃ、お願いしますね。

男：はい。





**練習 5**

話を聞いて、①②に答えてください。

- (1) **B14** ①話題は何ですか。

②男の人の意図は何ですか。

- (2) **B15** ①話題は何ですか。

②女の人の意図は何ですか。

**確認問題**

**B16**

この問題は話の前に質問はありません。まず話を聞いてください。それから、質問と選択肢を聞いて、1から4の中から、最もよいものを一つ選んでください。

- (1) **B17**

1	2	3	4
---	---	---	---

- (2) **B18**

1	2	3	4
---	---	---	---